

知事記者会見の概要

日 時：令和8年4月8日(水) 10:00～10:36

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) さくらんぼ結実大作戦！について

代表質問

- (1) イラン情勢に伴う県内企業活動や観光・イベントへの影響について
- (2) 水産研究所職員の公務中の死亡事故から1年経過しての所感について

フリー質問

- (1) 代表質問1に関連して
- (2) 発表事項に関連して
- (3) 最上義光を主人公とした大河ドラマ制作に係る要望について
- (4) 西川町長選挙について

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

県内各地で入学式が行われるシーズンとなりました。そういうときは交通安全というのがちょっと心配になります。

現在、15日まで「春の交通安全県民運動」を実施しております。運動初日の6日には、私も参加して「春の交通安全県民運動出発式」を実施したところであります。

春は、交通ルールに慣れていない新入学児童や生徒、運転に不慣れな新社会人を迎え、社会全体の活動も活発になる季節です。

このため、「通学路、生活道路におけるこどもを始めとする歩行者の安全確保」などを重点項目に掲げて、県内全域で交通安全運動を展開しております。

県民の皆様には、この運動を機会に、より一層交通事故防止の意識を高めていただきますようお願いいたします。

それから、4月に入り、一気に暖かくなってきました。春爛漫（らんまん）となりました。県内各地で続々と桜の便りが届き始めております。

今後、県内各地で桜まつりが開催され、多くの方々が賑わうこととなります。

全国の「さくら名所100選」にも選ばれた、南陽市の烏帽子山公園や鶴岡市の鶴岡公園をはじめ、山形市内随一の桜の名所である霞城公園、春を告げる魚といわれるカド、ニシンのことですが、カドの祭りで賑わう新庄市の最上公園など、県内各地で美しい桜が咲き乱れます。

さらに、本日、酒田では、今年度初の外航クルーズ船「ウエステルダム」が酒田港に寄港しております。これから年度内に、酒田港で初寄港となる3隻を含め、19回の寄港が予定されております。合計で20回の寄港は過去最多であります。

入港の際には、太鼓の演奏や花笠踊りなど地域を挙げたおもてなしで盛大にお出迎えしたいと考えております。

今年の県内の桜は、今週中に満開になることが予想されております。本格的に見頃を迎えた美しい桜で彩られた山形の春を、国内外の多くの皆様にお楽しみいただければというふうに思っております。

☆発表事項

知事

ここで、私から発表が1点ございます。

これです。(補足:知事が「やまがた紅王」の開花の様子を写した写真フリップを提示する。)こちらは、園芸農業研究所のさくらんぼ「やまがた紅王」です。

生育は、平年より5日程度早いということでもあります。このように小さな白いつぼみが見え始めており、今週末には開花する見込みであります。

県では、2年連続の不作を踏まえ、今年こそ、たくさんのさくらんぼを消費者の皆様へお届けするため、「さくらんぼ結実大作戦！」と銘打って、生産者に対し、JA や関係機関と一体となって、結実対策の実施をこれまで以上に強力に呼びかけてまいります。

これから開花前までが、最も霜に弱い時期になります。生産者の皆様には、凍霜害の対策を行うとともに、開花に向けて人工受粉の準備やミツバチの導入、さらには、ハチが活動しやすいように防風ネットの設置など、万全の準備をお願いいたします。

また、4月14日の「結実確保対策キャラバン」を皮切りに、「さくらんぼ結実大作戦！」の実施隊が活動を開始しますので、報道機関の皆様には取材して下さるようお願いいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の読売新聞の竹田です。私から2点、質問させていただきます。

1点目はイラン情勢についてです。

本日、停戦の同意があったと一部の報道もありますが、前回の会見からイラン情勢はより緊迫の度合いを増しているかと思えます。

県内の経済などへの影響も大きいかと思えますが、特に県内の企業活動や観光・イベントに関し、現状どのようなことを懸念されていて、その懸念に対して県としてどのように対応していくお考えか、具体的な対策などありましたら、併せて教えてください。

知事

はい、お答え申し上げます。

イラン情勢の影響について、県内の事業者に聞き取りをしましたところ、製造業では、潤滑油や塗装に使うシンナー、包装資材といった石油関連製品について、値上がりや入荷の遅れが生じている事例が出ております。特に、プラスチック関連企業では、供給元から材料が手に入りにくくなっていて、一部の製品では出荷ができなくなっており、今後の生産への影響を懸念する声もありました。

観光業では、ほとんどの宿泊事業者では、現時点で目に見えた変化は出ていないとのことであります。また、酒田港への外航クルーズ船の寄港につきましても、現在のところ予定どおりとなっております。

一方で、今後、原油価格高騰の状況が長期化した場合、経営への悪影響が懸念されるとの声が多くあります。

また、イベント関連におきましても、現時点では、開催は予定どおりとなっているものの、これからゴールデンウィークにかけて、遠方からの自家用車利用の観光客の客足への影響が懸念されるとの声もあったところです。

原油価格の高騰、さらには石油関連製品の調達が困難になっていることにより、経済活動の停滞、また、交通、物流など県民生活への幅広い影響が懸念されるところであります。

政府では、4月2日に、関係行政機関が連携し、石油製品・関連製品を含む重要物資の安定的な供給を確保するためのタスクフォースが開催されたところであります。

県としましては、引き続き、今後の政府の動きを注視するとともに、相談窓口での聞き取りを含む県内事業者等からの情報収集により県内経済の状況把握を進め、必要に応じて県内事業者や県民生活への影響を緩和するための対応について検討してまいりたいと考えております。

ちょっとほかの分野にも聞き取りをしたので、それも申し上げたほうがいいですかね。

まず、はじめに、本県のガソリン価格ですけれども、資源エネルギー庁が公表した、3月30日時点の本県でのガソリン店頭小売価格は、前の週から10.5円値下がりして、1リットルあたり170.6円となり、2週連続の値下がりとなっております。

県内の各分野における影響について把握している状況を申し上げますと、まず運輸分野につきましては、支出に占める燃料費の割合が高く、原油価格高騰による影響は極めて大きいものと認識をしております。

また、農林水産関係団体への聞き取りでは、軽油や重油等の燃料に加え、家畜の飼料などで値上げの動きがあり、今後、ビニールなどの農業用資材などで値上げされるとの情報があるところであります。

建設分野では、同じく業界団体に聞き取りをしましたところ、塩化ビニール管や保温材などの建築用資材について減産の動きがあり、入荷数や納期への影響が懸念されております。そのほか、値上げも予定されていると聞いております。加えて、原油を原料とするアスファルト合材についても、値上げの動きが出ていると聞いております。

そのほか、医療福祉分野につきましても、病院で暖房に使用する重油や、介護・障がい福祉施設で送迎・訪問サービスに使用する車両の燃料の高騰により経営への圧迫、ひいてはサービス継続に与える影響が懸念されるほか、医療用資材等の安定確保を心配する声もあります。また、低所得世帯ではガソリン代等の高騰による家計への負担が大きくなっているものと思われまます。

なお、今般のガソリン価格の高騰に対しては、政府において、3月16日から石油備蓄の放出を開始するとともに、3月19日からは全国平均小売価格が170円程度となるよう、石油元売り各社に補助金の支給を開始したところであります。こうした政府の取り組みの効果は県内でも表れてきております。

一方で、先ほど申し上げたとおり、建設分野における資材の減産といった動きや、医療用資材の安定確保に対する不安の声もあります。私自身も大変心配をしております。

繰り返しになりますが、県としましては、原油価格の高騰による県民生活や県内経済への影響について、引き続き状況把握を進めるとともに、今後の原油価格の動向や、政府の支援措置などを注視しながら、必要に応じて県内事業者や県民生活への影響を緩和するための対

応について検討してまいりたいと考えているところであります。

記者

ありがとうございます。

2点目は、県の水産研究所の職員の方が潜水作業中に亡くなられた事案についてになります。

職員の方が潜水作業中に亡くなられてから、今月2日で1年になりました。県の安全管理体制に問題があったことが指摘されていますが、あらためて今回の事案についてどのように受け止めているのか教えてください。

知事

はい。先週、4月2日の追悼式には、私も出席してまいりました。その後、事故が発生した現場にも赴いて、手を合わせてまいりました。かけがえのない、尊い命が失われたことをあらためて思い起こし、深い悲しみを感じました。本当に残念でなりません。

あらためて、お亡くなりになった五十嵐研究員に深く哀悼の意を表しますとともに、御遺族の皆様にも心からお悔やみを申し上げます。

事故の原因については、現在も酒田海上保安部の調査が続いておりますので、私から現時点でコメントするのは差し控させていただきますが、こうした事故を二度と起こさないという決意を新たにして、組織体制も見直したところであります。

県としましては、職員の安全衛生管理を徹底し、再発防止に取り組んでまいりたいと考えております。

☆フリー質問

記者

おはようございます。山形新聞、稲村です。

最初の幹事社の質問の、イラン情勢についての関連でお聞きできればと思います。一時停戦ニュースも今朝方ありましたけれども、依然として、エネルギーの供給不安というのはずっと続いていて、これからも見通せない状況かと思えます。政府のほうでは、備蓄は十分だという説明もあったところですが、一方で、一部で国民に対して、節約を呼びかけるべきだという指摘もいろいろなところから聞こえてくるような状況かと思えます。

県民ですとか、県内企業を含めてですが、それに対する節約を呼びかける必要性、対策などをどうお考えになっているかをお聞きできればと思います。

知事

はい。現時点ではですね、石油の備蓄が来年の年明け頃までは大丈夫になりそうだとか、あと代替ルートというようなこと、またほかのところからエネルギーを調達するというよう

なことも政府として考えられるというようなことでありますので、いまいま、節約ということは、呼びかけることはしないつもりであります。ですが、寒さもだいぶ和らいでできて、北国では寒い時は暖房が無いと健康を損ねてしまいますので、ようやく暖かくなってきましたので、これから状況を見ながらですね、こういった呼びかけができるのかといったことも、検討していければと思います。

ただ、本当に医療分野ですとか、福祉分野、こういったところでは、節約というようなことまでは、私は呼びかけることはしないで済めばいいなというふうに思っているところです。

記者

だと、やはり臨機応変に対応していくということでしょうか。

知事

そうですね。やはり刻々と変わる状況を見ながら、こういったことをするのが望ましいのか、適切なのかといったことを検討していきたいというふうに思っております。

記者

河北新報の渡辺です。よろしくお願いいたします。

冒頭の発表事項にもありました、さくらんぼのことについてなんですけれども、フルーツ150周年というのが昨年ありまして、今年はそれから1年明けたってということになると思うのですが、県として、今年ってものをさくらんぼの観点からどのように位置付けているかということ、あとは、山形県にとってさくらんぼという作物について、どう捉えているかっていうところをお聞きできればと思います。

知事

はい、ありがとうございます。さくらんぼというのは、山形県のシンボルだというふうに思っています。つや姫も出てきましたけれども、昨年は、さくらんぼ栽培を始めてか150周年ということで、県政が今年150周年で、その前の年にもうさくらんぼ栽培を始めているわけございまして、本当に「山形県イコールさくらんぼ」というような、県外に行きますと、山形県といえばさくらんぼなんです。さくらんぼといえば山形県であります。ですから、毎年、私、市場にPRに赴きますけれども、大田市場に行ったときとかですね、いろんなところで、「さくらんぼといえば山形、山形といえばさくらんぼ、さくらんぼは品質・量ともに山形県が日本でございまして」っていうのが常套（じょうとう）文句になっておりまして、本当に県民の皆さんが感じる以上に、山形県イコールさくらんぼになっているというふうに思っています。大変、人気も高いです。そういうフルーツでありますので、このさくらんぼ生産量日本一というのは、何としても死守したいというふうに思っています。これまで先人の方々が、品種改良でありましたり、さまざまな苦難を乗り越えて、生産をしてきてくださ

いました。そういったところにも感謝をしながら、将来の世代のためにも、何としてもこのいろいろな課題、困難を乗り越えて、生産量日本一を堅持していきたいと思っております。そして、たくさんの方々に、山形県のさくらんぼを召し上がって、楽しんで笑顔になっていただきたいというふうに思っております。生産者の皆さんも本当に、去年も一昨年も大変不作でご苦労されました。さくらんぼの木が切られたというようなことも聞いているところでもありますけれども、いろいろな対策をしながら、また今後に向けて、全部手作業でしたけれども、できるだけ省力化とか効率化とか、そういったことにも農工連携などしながら、しっかりこれから取り組みまして、作業もしやすいように、ITも駆使しながらですね、まずは日本一さくらんぼ生産の山形県として、しっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。あらためて、今年的位置付けといたしますか、そういったところについて、お伺いできればと思うのですが。

知事

今年の取り組みですね、本当に気候ということに対しても、霜は降りると大変でありますし、また、開花したときに、風が強いとハチが飛ばないと聞いています。ということは、受粉がなかなか大変で、手作業で受粉もしますけれども、やっぱり自然のハチさん達の力には及ばないというところがありますので、そういった、春先の天候不順といったことも対処しながら、やはり官民一体となってしっかりと取組んで、今年こそは平年並み、あるいはそれ以上の生産量を実現したいというふうに思っています。それで多くの皆さんに喜んでいただきたいというふうに思っております。

記者

さくらんぼテレビの菅原と申します。

さくらんぼの結実大作戦ということで、今決まっている、どういったことをするのかという予定と、今後どういったことを計画されているのかというお考えがあればお聞きしたいのと、あと、生産量日本一を守っていくために、新たにさくらんぼの生産を始める方々に対する支援なども今後県として考えていることがあれば教えていただきたいと思えます。

知事

はい。結実対策というものです。県、そしてJAや関係機関と一体となって生産者と一緒になって結実対策の実施を生産者に呼びかけるのですが、具体的には講習会やSNSを活用して凍霜害対策、人工受粉の実施や受粉樹の切枝設置、ミツバチが活動しやすい環境整備の方法などを紹介するとともに、結実対策を実施している園地に看板を設置して、産地全体

で対策を実施する機運を醸成してまいります、といったことだと聞いております。

記者

新しくさくらんぼの就農というのですか、さくらんぼの生産者になろうとしている方々という、若い世代もしくは新たにサラリーマンを辞めてとか、いろんな方がいると思うのですが、そのあたりに対する支援というのは今のところはないのでしょうか。

知事

初心者と言いますか、初めて生産する方への支援ということについては、担当のほうから後で詳しくお願いします。

記者

NHKの内藤です。お願いします。

イラン情勢にまたちょっと話が戻るのですが、アメリカとイランがですね、2週間にわたる停戦で合意しまして、イラン側はホルムズ海峡を2週間にわたって安全な航行が可能になるというような声明を発表したということなのですが、このイラン情勢で県内経済の説明が先ほどありましたように、いろいろな影響が出ているというところで、こうした停戦に向けた動きが出てきたということについて、今後どういうふうに期待されるかと言いますかね、戦闘の終結に向けて期待される部分とかがありましたら教えていただければと思います。

知事

はい。私が今朝自宅を出るときには停戦の合意というところまではちょっと承知をしておりませんで、正直申し上げて、今記者さんから教えていただいたところでありまして。ですので、ちょっと確認が取れていない状況なのでありますけど、もしそうだとすると、ひとまず2週間合意となったのは、ひとまずちょっとほっとできるかなというふうに思っています。まだホルムズ海峡に40以上の日本の船が留まっているというような情報も報道で聞いておりますので、そういった船が、無事に帰ってこれるかなというふうに、そのところはちょっと期待したいというふうに思います。

また、今後の恒久平和に向けて、さらに国際的なさまざまな国々が関連して平和的な方向にあってほしいというのが正直な気持ちです。県内、本当に石油関連製品とか、ガソリンがないとなかなか身動きが取れないというような実態もあります。事業活動や県民生活に大きな影響がありますので、早期に解決していただきたいというふうに思っております。

記者

読売新聞の竹田です。

吉村知事、今月の15日にNHKの放送センターのほうに行かれて、最上義光の大河ドラマ化をしてほしいという要望書を出されるかと思うのですが、知事が行かれて要望書を出される理由とか、あとは大河ドラマ化に向けた何か思いとかあれば教えていただけますでしょうか。

知事

はい。では、最上義光を主人公とした大河ドラマ制作に係る要望、それを出す理由というようなことについて申し上げたいと思います。

最上義光公は、置賜地域を除く山形県と秋田県南部を領地とした大名であります。城下町の整備や水田開発、産業振興に尽力され、山形県の発展の基礎を築いたことで知られている方です。庄内地方の、今の広大な平野が広がっていますが、水田も、最上義光公の家臣がその礎を築いたというふうに聞いております。また、近年では研究が進み、民衆に寄り添いながら東北有数の勢力を築いただけでなく、京都では名だたる連歌師（れんがし）たちと句を詠むなど、秀でた教養を持つ多才な名君としての義光像が明らかになりつつあります。そのほか、NHKの人気番組「歴史探偵」で取り上げられたことにより、若い世代も含めて多くの方に注目されております。

私的には、最上義光公が現在の日本の三大植木市と言われる、5月8日の植木市を始めてくれた方だということも聞いておりますし、その息女駒姫の逸話もありまして、今の大河ドラマに出てくるのかどうか、などとちょっと思ったりしております。

こうした中、山形大学名誉教授である松尾剛次（けんじ）氏が代表を務める「最上義光を大河ドラマにする会」では、義光に関する最新の研究成果を紹介する講演会や直木賞作家である高橋義夫氏を招いてのシンポジウムを開催し、大河ドラマ制作への機運醸成を図っております。この機会を捉え、NHK本部を訪問しての大河ドラマ誘致の要望を行うものであります。

大河ドラマが実現すれば、県内外の多くの方々に山形県の歴史や文化を御理解いただく絶好の機会となり、地域がますます盛り上がるものと期待されますので、私としましては、松尾氏とともに誘致の要望を行いたいと考えているものであります。

それから山形市民として思うのは、いつだったか、伊達政宗が主人公だった大河ドラマのときに、最上義光は伊達政宗の母義姫の兄にあたるわけです。すごい悪役にされたんですよ。原田芳雄さんがまたものすごい名優で、本当に悪名高い大名としてのイメージが植え付けられてしまいました。その払拭もしなければいけないというふうに一市民としても感じているところであります。霞城公園、今満開ですから、皆さん桜の花見に行かれると分かるんですけど、あそこに最上義光の馬に乗った像があります。本当に勇壮な方でありまして、本当に私たち市民にとりまして立派な大大名であった、57万石でしたかね、本当に素晴らしい方だったということでもありますので、その悪役を払拭して名君として世の中に知られてほしいなという思いも含め、要望に行ってきたと思います。

記者

別件になるのですけれども、昨日告示された西川町長選についてなのですから、今回の町長選の候補者に対して、一部メッセージを送られた方もいるかと思うのですけれども、知事としてあらためてどのようなスタンスで臨まれるのか、支援されるのかというところのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

知事

そうですね、パワハラというようなことで大変大きな話題になりましたし、ハラスメントというのはいかなる場合でもあってはならない人権侵害だというふうに思っております。そういったことも含め、町長選というのがあるわけでありまして、次の4年間の西川町の町政の舵取り役を選ぶ大事な選挙であります。町民の皆さんのどういったお考えでどういった方を選ぶのかということになりますが、皆さんがしっかりとお考えになって投票に臨んでいただければというふうに思っております。

私が立候補者のどちらかにというようなそういったことではなくて、やはり町民の皆さんのお考えが一番だと思っておりますので、どなたが当選されましてもそれは町民の皆さんのお考えということで西川町の発展、町民の幸せのためにご活躍をいただければというふうに思っております。

以上